

FD 活動の報告

糊 山 洋 介

日本語日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語・入門講義の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに、平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

さて、今年度は、昨年度策定した下記の「平成23年度から27年度までのFD活動計画」に従い、FD活動を実施した。

平成23年度から27年度まで（5年間）のFD活動計画

毎年度、教育（特に授業）を改善するための「研修会」を開催する。

研修会の回数：各年度、2～4回程度。

研修会の形式など

講演者・発題者があるテーマについて話し、その後、質疑応答・ディスカッション。

火曜日の全体会の時間帯を当てる（1時間程度）。

講演者・発題者は、話の内容を、A4、1～2枚程度にまとめ、記録として残す。

今年度実施した「FD研修会」の内容は下記の通りである。

(1) FD研修会・第1回

実施日：2011年7月19日

講演者：村上京子（名古屋大学教授）

題目：ポートフォリオ評価

概要：日本語教育における「評価」の動向、特にCan-do-statementsによるコミュニケーション能力判定基準の策定などを踏まえて、ポートフォリオ（教育目的に沿って収集した学習者の学習成果のコレクション）に基づく、講演者自身の授業における実践を紹介した。特に、具体的な手順と方法、利点・効果を明示し、さらには問題点・課題にも触れた。学習者主体の授業の重要性を再認識し、具体的方法を知る有意義な機会であった。

(2) FD研修会・第2回

実施日：2012年2月7日

講演者：町田健（名古屋大学教授）

題目：日本語の謎を解明する

概要：日本語研究において、極めて重要でありながら定説を見るに至っていない（相互に関係を有する）諸問題について、独自の説を提示した。取り上げられた問題は、「主語とは何か」「形態素 {ru} の意味と動詞の種類の関係」「主題の特性」などである。日本語教育に従事する者も、絶えず日本語そのもの、日本語の本質に目を向け、理解を深めなければならないことを再認識させられる内容であった。